

九州山口医科学生体育大会を振り返って
(レースレポート)

今年で45回目を迎える九山は、大分県都築市にある住吉浜という会場で行われた。ここは、梅園カップなどのプロのレースも行われている、とてもウィンドに適した会場らしい。前情報によると吹くときはかなり吹くし、吹かないときは全然ダメというのを耳にしていたので、どうにかして吹いてくれないかと、一週間前からずっと天気図をチェックしていたが、残念ながら願い空しく、高気圧が張り出して真夏のような気圧配置になろうかという感じであった。

大会3日前に先発隊として4年の自分、手登根、2年の水野、村岡が鹿児島へ向かった。空港から鹿児島大学の方に送っていただいて、どうにか送っていた車を引き取れた。そのときもう時間は午後3時。鹿児島港から大分まではどう考えても8時間以上はかかる。かなり気分は滅入っていた。しかし、一刻も早く海上チェックを行いたい一心で、出発。夕方から飛行機で来る奴等を恨みながら、睡魔をごまかしつつ運転する。全学に借りたオンボロハイエースはガタガタとかなりヤバイ音を鳴らしながら、ちんたら走る。このスピード感が余計に睡魔を呼び覚ます。途中ファミレスで夕食をとるときには、もうすでにみんなへロへロだった。

なんとかこうとか着いた宿は、なんと家を一軒まるまる貸してくれるというではないか！しかも一泊3000円である。驚きつつも、さっそくコタツにみんな一斉に突入した。なんせ寒い！！！その日は沖縄との気温差は10℃以上あったであろう。寒さのせいもあり、結局そのリビングでみんな寝ることになった。せっかく2階まであるのに。。。そこに、夜に列車で向かうはずだった後発隊が、列車が運転を見合わせたため今夜は来れないというアクシデントに見舞われたという知らせが入る。心配しつつも、その時すでに時計の針は2時をさそうとしていたため、布団にもぐりこみ、さっそくみんな爆睡した。

翌日、朝おきて海を見に行くと、もうすでに数艇セッティングをしているではないか。こうしてはおれんと自分達もさっそく海へ。その日は前の日より5℃ほど暖かく、風も北西の風(クロスオフ)ががつつり入って6~7mは吹いていて、かなりいいコンディションだった。他大学が走っていないのを見て、少し自信がでてくる。本番もこうなる事を祈りつつ、着艇。海面をチェックしたところ、どうやらこのコンディションでは左の岬に向かって行くといいようであった。その日は鹿児島の人たちのお言葉に甘えて、いっしょにカレーを食べた。九山は、レース自体も面白いのだが、もう一つの楽しみは他大学との交流だ。その日は、お酒も程ほどに就寝した。

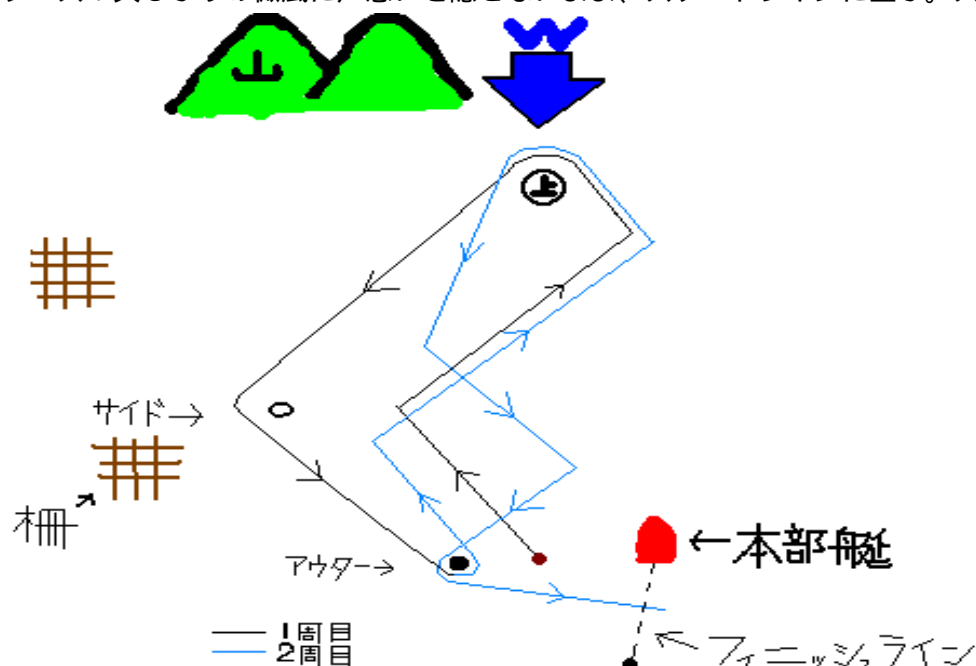
大会前日。相変わらずのいい天気である。しかし、昨日とは打って変わって東風が4~5m(サイド~クロスオン)。海面は均一に風が入ってきて、単発ブローをいかにうまく取るかが重要になりそうな感じを受けた。この日も、他大学と合同のラウンディングを行った。この風でもいけそうな手ごたえを確かに感じつつ、はやめに着艇。この会場は潮が引くと

300mくらいは干上がってしまうため、出艇、着艇にかなり苦労する。しかもちょうど大会中は大潮が重なっている。ついていない。

大会当日。張り切って4月に練習をし過ぎて(?)腰を痛めていた4年の谷岡の調子もた海が、9時過ぎあたりからざわざわしだす。風向は昨日といっしょの東。3~4mといったところか。準備体操を各自しているうちに、予定通り9時30分Z旗が上げられた。

<レース一日目>

1レース：久しぶりの微風に戸惑いを隠せないまま、スタートラインに並ぶ。スタートラ



インは上有利か下有利か分かりづらかったので、とりあえず中央からやや下から出ることにした。結果は失敗。しかもビギナーから接触され、大いにスタートに出遅れる。他の艇団に追隨する形となり、かなり焦ったが、左海面のブローに合わせタックを打つ。これが効を奏してシングルまでは挽回する。しかし、下りでまだ感覚が掴めていないせいか、ミスをして沈。結局、13番に終わる。。

2レース：少し風が入り始め、ブローで5m、アベレージ3~4mといったところか。今度はさっき使ったブローにいち早く入れるようにスタートを成功させ、1上をとる。しかし、やはり下りでブローがなくなり後ろの艇から入った為、結局順位を落とし3位。微風での下りは九州勢との力差を感じざる終えない結果となった。

3レース：先ほどと同じような海面だったので、同じように走るが、スタートを攻めきれないせいか、どうしても1位で回りきる事が出来ない。苛立つ気持ちを抑えきれずフィニッシュラインを切ろうとすると、なんと実は切っていない事が判明し、DNFという重大失態をおかしてしまう。これでカットレースはなくなった。

4レース：本当の4レース目は運営の不手際でキャンセルとなり、足がつりながら漕いだ1周は水の泡となり、選手全体からため息が漏れる。自分としてもかなり風が落ちた中

5、6位をキープしていたので、かなりがっかり。体力もそろそろ限界と言う所で仕切り直し。今回の運営の人はよく言えば「熱血」、悪く言えば「鬼」だと思った。

5レース：選手達の体力も尽きようかという感じで、周りを見渡しても、選手達の顔に疲れの色が伺える。どんどん風は落ちていき、2~3mというところでスタート。一上でパンピングする体力が残ってなかったのもあり、10位くらいで回航するも、2上で勝負に出る。皆が回航と同時に即タックをする中、自分だけ1下を下る途中に見たかすかなブローを取りにそのままポートを延ばす。これが大当たりし、一気にジャンプアップしてなんとか6位に終わる。

一日目が終わり、他の部員も久しぶりの微風に翻弄され、かなり疲れた様だった。また初めて体験する他大学とのレースで洗礼を受け、多少なりともショックを受けたに違いない。明日は吹くという予報を信じ、そそくさと就寝する。

大会2日目。朝起きてみると、嫌な予感。全然吹いてない。。。あの予報はなんだったんだと言うほどに昨日と同じようなそよ風が悲しげに吹くばかりだ。気を取り直して音楽を聴きながらセティングに入る。

<レース2日目>

6~9レース：風向もたいして変わらず、振れも少ない。おまけに2~3mの微風。かなり琉大にとって不利な風となってしまったが、これも自然の摂理だと観念し、ひたすらパンピングをする。下りは漕ぎまくる。そこそこの順位を走るものの、8レースは不覚にも集中力が途切れ、13番と言う数字をたたき出してしまう。やはりメンタル面でもまだまだ未熟だと感じた。

結局この日も4レースを成立させ、かなり充実した大会だったと思う。自分以外の他の部員達にとっても今大会は非常にいい刺激になったと思う。

最後になりましたが、わざわざ応援に来てくださった小野さん、摂さん、ゆうすけさん、さやかさん、ちえさん、本当にありがとうございました。岩永先生、垣花先生、OB、OGの皆さん、せっかくいままですずっと応援して下さったのに勝てなくて申し訳ありません。来年こそは、優勝を個人でも、団体でも、目指して部員一同さらに練習に励みます。